

第22回 岡山医療フォーラム

2023. 3. 18(土) 14:00~16:00

公益財団法人岡山医学振興会

代表理事 山田雅夫

当財団は、2001年に岡山大学医学部内に設立され、その後、法律の改正により、2011年に公益財団法人となりました。当財団の活動の一環として、毎年一般市民の方に向けて市民公開講座を開催しています。

その他の財団の活動として、岡山県下の医療に関する教育、研究、学会、研究会、医療関係の方の海外派遣、海外からの招請、地域連携活動などを支援致しております。そして、これらの活動は、岡山大学医学部関係者から毎年いただくご寄附で行っています。

今後とも、市民の皆様にもご支援ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

Zur Hausen 博士と子宮頸がんワクチン

公益財団法人岡山医学振興会 難波正義

1995年、私がハイデルベルグ大学にあるドイツがん研究所で、「ヒト細胞の放射線による発がん」というテーマで講演した折り、その時の研究所長 Zur Hausen 博士（2006年、ノーベル賞）から、ヒトのがんとウイルスの関係について質問された。当時、博士はヒトのがんが、ヘルペスウイルスによっておこるという論文を発表していた。

アフリカでよくみられるバーキットリンパ肉腫はリンパ球のがん化したもので、そのがん細胞にEBウイルス（ヘルペスウイルスの一種）が電子顕微鏡で観察される。また、実験的にこのウイルスでリンパ球をがん化させることも証明された。博士は、若いころの研究で、このバーキットリンパ肉腫細胞の遺伝子の中にウイルス遺伝子が組み込まれていることを証明して、ヒトのがんの発生とウイルスとの関係に深い関心を持っていた。

その後、上記のバーキットリンパ肉腫の研究を基礎として、博士はパピローマウイルス（皮膚にイボをつくる）遺伝子が子宮頸がん細胞の遺伝子のなかに入っていることを遺伝子学的解析で証明した（子宮頸がんには電子顕微鏡でウイルスは観察されない）。しかし、遺伝子の存在だけでは、ガンの発生の原因となるとは言えない。そこで、Zur Hausen 博士は、パピローマウイルスワクチンをつくり、このワクチンが子宮頸がんの発生を抑制することを実証して、パピローマウイルスが確かに子宮頸がんに関係することを示した。この実績がノーベル賞に繋がった。

オーダーメイドな乳癌の診断と治療

岡山大学病院 乳腺・内分泌外科 枝園忠彦

乳がんは女性が罹患するがんでは最も多く、日本で年間10万人の女性が新たに乳がんと診断されます。ただし死亡率は他のがんと比べて高くありません。その理由は、がんの性質に加えて検診で早期発見できることや、手術・放射線治療・薬物療法を組み合わせる集学的治療が確立しているためです。ただ、検診の開始時期や検診方法は乳がんのリスクや年齢によって違います。乳がんを罹患した場合も、治療は様々です。乳がんにはいくつかの種類があって、その性質に合わせた治療が推奨されます。みな同じ治療をするわけではないのです。また、乳がんは他のがんと比べて比較的若い女性が罹患します。小さなお子さんを持つお母さんや大事なポジションでお仕事をされている方が罹患するがんです。そして、治すことができるがんです。長い期間の治療と経過観察が必要です。乳がんについて、正しく理解して検診や治療を受けることが大切です。

婦人科がんの新潮流

岡山大学病院 産科婦人科 小川千加子

今回は、婦人科がんの中でも、この数年で大きな変化のあった子宮頸がん予防と卵巣がん治療について取り上げます。

子宮頸がんは若い女性に多いがんの一つで、命だけではなく妊娠出産にも大きな影響を与える病気です。ヒトパピローマウイルス（HPV）の感染が主なリスク要因であり、感染を防ぐワクチンが公費で接種できます。子宮頸がんの予防の重要性や、HPVワクチン接種後症状への体制について解説します。

卵巣がんは半数以上が3期以上で発見され、長期生存は難しい病気でした。ここ数年で卵巣がん治療においてもゲノム医療や分子標的薬が積極的に取り入れられ、どのような方に効きやすいかも分かってきました。また、他のがんに比べ遺伝性である割合が高く、遺伝性の場合には予防も可能です。卵巣癌の新しい治療法や遺伝性腫瘍について解説します。